



# 統計スポット情報

No. 15

10.6.30 福井県総務部情報政策課

## 調理食品の利用拡大

近年、女性の社会参加、とりわけ既婚女性の就業が多くなったことや、電子レンジなどの普及により、弁当をはじめ、冷凍食品や惣菜などの調理食品の利用が拡大しています。この食形態は外食でもなく、家庭で素材を調理する内食でもない「中食」と呼ばれています。

家庭における食形態は、どのように変わっているのでしょうか。今回は、「家計調査年報」から、福井市の動向を見てみましょう。

### 内食の割合は低下し、中食、外食は上昇

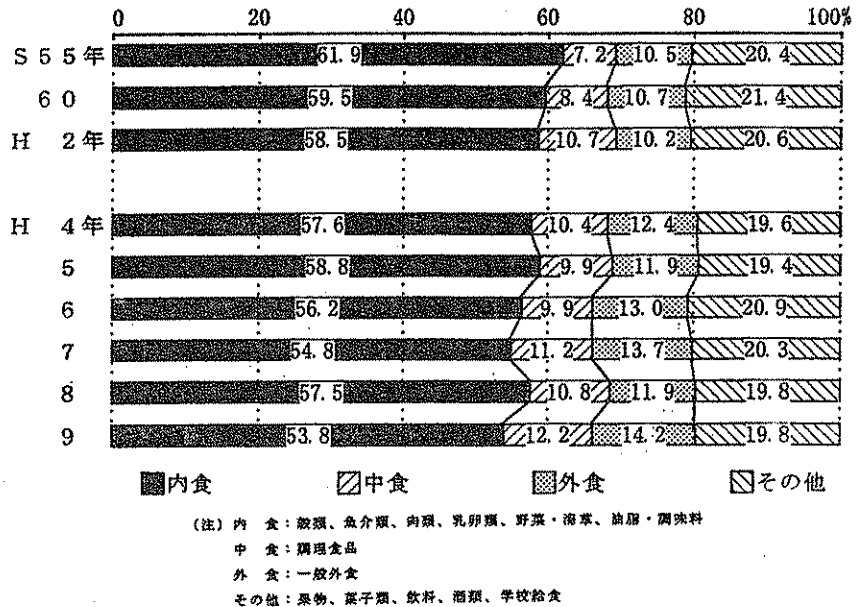
食料を、穀類、魚介類、肉類、野菜・海藻などの「内食」、弁当、冷凍調理食品、惣菜などの「中食」、飲食店、食堂などを利用する「外食」と「その他」に分けてみると、食料に占める内食の割合は、昭和55年には、61.9%と約6割を占めていましたが、平成9年には53.8%と食料全体の約半分まで割合は低下しています。

一方、中食の割合は昭和55年に比べ、5.0ポイント上昇して12.2%となり、外食は、3.7ポイント上昇して14.2%となっており、家庭での食事が素材の調理から外食や調理済みの食品の購入へ移行していることがうかがえます。〔図1参照〕

また、中食の内訳をみると、平成5年に比べて、弁当類は約1.5倍、やきとりは約1.4倍、サラダ、しゅうまいは約1.3倍、冷凍調理食品は約1.2倍となっており、最近4年間の伸びが目立っています。〔表参照〕

中食の支出状況（平成9年）を品目別にみると弁当類が最も多く、次いで天ぷら・フライ、冷凍調理食品の順になっており、天ぷら・フライ、やきとり、冷凍調理食品は、全国を大きく上回っています。〔図2参照〕

〔図1〕食料に占める内食、中食、外食などの割合の推移（福井市・全世帯）



〔表〕中食の主な種類の名目金額指数（福井市・全世帯）  
（平成5年=100）

	5年	6年	7年	8年	9年
弁当類	100.0	102.4	111.2	105.3	146.3
うなぎのかば焼き	100.0	88.6	96.2	95.8	110.7
サラダ	100.0	97.7	130.2	123.3	126.3
コロッケ	100.0	96.9	101.6	101.1	107.6
天ぷら・フライ	100.0	92.6	98.2	94.6	107.1
しゅうまい	100.0	138.4	123.7	119.0	129.2
ぎょうざ	100.0	88.5	97.0	120.2	114.1
やきとり	100.0	119.3	146.0	121.2	142.7
ハンバーグ	100.0	104.6	109.2	81.6	79.9
冷凍調理食品	100.0	112.7	116.6	116.3	124.7

〔図2〕中食の品目別支出状況（平成9年）

